

であいこうか

Simple is Powerful

やまなか さちこ
大道芸人マリリン山中 幸子さん

昔から人を喜ばせることが大好きだったという山中幸子さん（水口町）は、大道芸人マリリンさんとして、またその他にもアコーディオン奏者など色々な顔で市内外を問わず活躍されています。



◆今はどんなことをされているのですか？

一言では話せないほど色々なことをしています。ジャグリング、マジック、着ぐるみを着てバンド活動、そしてアコーディオン演奏に最近凝っています。こういった活動をボランティアで、地域の敬老会や福祉施設で演じることも多く、忙しい毎日を送っています。

◆活動をはじめられたきっかけは？

全く普通の主婦だったのですが、あるイベントのステージで見たジャグリングサークルの公演に感動したので、すぐその場で連絡を取りサークルに参加させてもらったのが最初です。月1回のサークルでしたが、新しい技を覚えてびっくりさせようと毎日必死に練習して覚えていきました。

◆その後も順調に？

大道芸人としてデビューして公演に追われるほどの毎日でしたが、週末家に居ないことが多く、家族のことが心配で一度は主婦に戻りました。しかし、芸への思いを持ち続けていたことが周囲には分かるのか家族や昔のお客さんたちから力をもらい、ある人の「simple is powerful」という言葉で復活を決意し、今年12年目を迎えるまになりました。

◆これからの目標などは？

復活してから、ある公演でアコーディオン演奏を観て、その場で教えてほしいと頼み込み、月2回宇治市までレッスンに通いました。これもジャグリングと同じように、すぐに楽器を買い、楽しみながら必死に練習したので、公演で披露できるまになりました。これは、本当に素晴らしい奥の深い楽器ですが、演奏できる人がほとんどいなく、寂しく思っています。

これからは、大道芸で人を楽しい思いにしつつ、ほとんど奏者のいないアコーディオンを広めていきたいなと思っています。

アコーディオンを始めたい人大募集

演奏できるようになりたい人、なんとなく興味がある人、アコーディオンを始めたい人を募集しています。初心者の方はマリリンさんが教えます。経験者ももちろんOKです。

問い合わせ 山中幸子さん ☎080-1486-1611

市の玄関口でお花のおもてなしを

貴生川駅自由通路フラワーボックス

地域で奉仕活動する水口ロータリークラブが11月26日、貴生川駅構内通路に設置されているフラワーボックスをリニューアルしました。この施設は、設置されてから30年間毎週欠かさず花が生けられ、市の玄関口で訪れる人々を楽しませてきましたが、老朽化が目立っていました。これからもこのボックスには同クラブとその協力者の皆さんにより、いつも美しく花が生けられるなどとして、市内へのお客様をおもてなししていきます。

通りがかった利用者「公共の場所を地域の様々な皆さんが守ってくれているおかげで気持ちよく過ごせるのだなと思います」と話し、生けられた花に見入っていました。



▲新しいフラワーボックスの除幕式

互いの違いや良さを認め合う

国ふえす2013inKOKA

国際交流フェスタ2013実行委員会が主催する国ふえす2013inKOKAが12月8日、碧水ホールで開催され、多くの来場者でにぎわいました。

今回で9回目を迎えるこの催しは、国籍だけでなく互いの違いや良さを認め合おうという多文化共生の実現を目的に開催されており、ブースでの展示や、ダンス英語落語などのステージイベントを披露することでお互いの文化を紹介しました。

この日は、10か国以上から37の団体が参加し、インドネシア料理やブラジル料理、水口の料理などの模擬店やお餅つき体験に長い列ができました。

今年初めて参加した方は「初めて外国の方と親しくお話ししました。これからはもっと身近に話しかけていきたいです」と地域の国際交流を楽しんでいました。



▲ステージ披露される様々な文化

元気なまちかど

失敗と立ち直りの繰り返しから成功つかむ

トップアスリート講演会

女子レスリング金メダリストの吉田沙保里選手を迎え、トップアスリート講演会が11月26日、あいこうか市民ホールで開催されました。この講演会は、世界を舞台に活躍する選手の信念や生き方にふれ、困難に立ち向かうチャレンジ精神を学んでもらおうと県立水口高等学校が毎年実施しているもので、全校生徒約700名が参加しました。

講演は、指導する日本レスリング協会女子強化委員長の栄和人さんとの対談形式で行われ、オリンピック出場の実験を振り返りながら「私は、何回でも失敗して立ち直って成功をつかみました。経験を糧に目標を持って進んでください」と呼びかけました。



▲獲得した金メダルを披露する吉田選手

見入るのは自然の美しさ

学校にアートがやってきた

学校の空き教室などを使って若手芸術家などの作品を紹介する「学校にアートがやってきた」が、11月19日から28日まで油日小学校の多目的室で開催されました。

この事業は、若手芸術家を支援し、児童が身近に「美」を鑑賞できる環境づくりを進めるため、県文化振興課が今年度初めて行ったものです。

同小学校では、市内在住で、木の廃材を使った「木彩画」に取り組み松本光彩さんの作品など約30点が展示され、訪れた方は、描かれた自然の美しさに見入っていました。

また、28日には同小学校4年生30名が、松本さんからオイルパステルの技法を教わり、指を使って色を混ぜ合わせるなど普段と違った表現に挑戦しました。



▶オイルパステルを使った表現を学ぶ油日小学校児童

企業が協力する森林保全はじまる

コープの森あぶらひ除幕式

琵琶湖森林づくりパートナー協定に基づく「コープの森あぶらひ」の看板除幕式が昨年11月30日、甲賀町の高間みずべ公園隣接地で行われました。

同協定は、油日・上野共有生産森林組合と生活協同組合コープしがとの間で10月に締結されており、両者が互いの活動を支え合う形で森林を守っていく内容です。

最近では、林業の衰退や生活スタイルの変化などによって山林が荒れてきており、本来持っている多面的な機能が失われてきています。

近くにお住まいの方は「森は大切な場所なので、企業の方々が地域で保全に取り組んでいただけることはとても心強い」と話され、企業と協力した森林保全の取組に期待を寄せていました。



▲設置された看板を除幕する西山コープしが理事長(左)と松山生産森林組合長(右)